

ミズダコ

津軽海峡

Enteroctopus dofleini

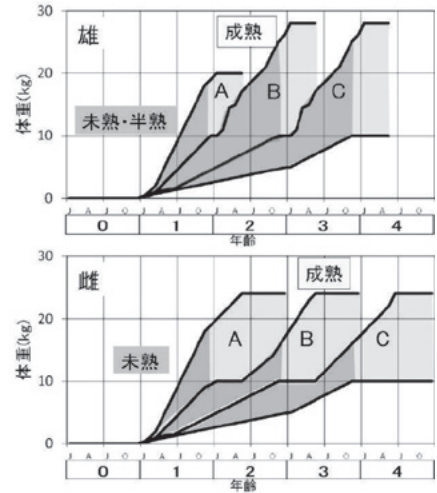
地方名

まだこ（メス）、みずだこ、
しおだこ（オス）



生態

- ①寿命：オス4年5ヶ月、メス5年。オスは交配後、メスは産卵、卵保護後死亡。
- ②成熟体重：オス9.8kg以上、メス8.5kg以上。メスの最小交配個体は体重10.6kg。
- ③産卵期：青森県内での産卵は未確認。成熟状況から津軽海峡沿岸の産卵期は3～5月と推定。
- ④産卵場：岩棚に房状の卵を産み付け、ふ化までメスが保護する。
- ⑤分布：日本～北アメリカの北部太平洋岸に分布。国内では北海道から日本海側は五島列島、太平洋側は相模湾まで。
- ⑥生態：青森県では沿岸全域の水深2m～350m以浅の岩礁域や砂礫質の海底に生息する。
- ⑦成長：年齢形質は不明。標識放流等の結果から、成長は個体差が大きく、雌雄差はない。2～5歳に成熟体重に達する4グループを確認。



A: 成長が速いグループ
B: 平均的な成長のグループ
C: 成長が遅いグループ
※出典：野呂・桜井（2012）

図 津軽海峡におけるミズダコの成長

主な漁業

タコたる流し、タコ籠、タコ箱、底建網、さし網などで漁獲され、主な漁場はごく沿岸から水深80m付近まで。太平洋、日本海では底びき網でも漁獲。

漁獲の動向と水準

津軽海峡海域での漁獲量は、昭和50年代は概ね1,000トン以下であったが、昭和61年に1,945トンに急増した。

その後、1,000～2,000トンの間で推移したが、平成22年以降減少傾向にあり、平成29年は504トンであった。

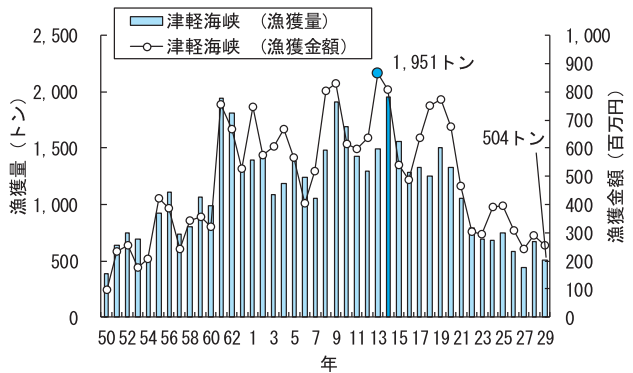


図 青森県津軽海峡海域におけるたこ類の漁獲量及び漁獲金額の推移

※ミズダコ以外のたこも含むが、津軽海峡では大半がミズダコ。

漁獲の動向



減少

漁獲の水準



低位

資源を上手に利用するために

- ・平成2年10月に県漁連が主体となって小型個体の再放流、販売禁止、操業期間の制限が定められ、現在は体重が3kg未満再放流、禁漁期間を7月1日～10月31日としている。
- ☆上記のような取組を継続することが必要である。

トピックス

- ・津軽海峡で放流されたミズダコは、津軽海峡外へほとんど移動せず、また一部の個体は津軽海峡を横断し、対岸へ移動する。青森県産業技術センター水産総合研究所と北海道立総合研究機構水産研究本部との共同研究から、津軽海峡に分布するミズダコは一つの集団であると考えられている。
- ・平成26年度から脱出口付改良籠の実証試験を行った結果、改良籠ではミズダコ小型個体の漁獲割合が低下し、小型資源保護に繋がると考えられた。